

2008年 日本建築学会北海道支部 技術賞

・外断熱の「BES-T 構造法」

川本 謙 君（土屋ホーム）

審査経緯

本賞は、創造性豊かな建築・都市に関する技術の開発者を表彰することにより、北海道における建築界の技術の向上に資することを目的として設けられた賞である。建築雑誌の10月号に応募要領が掲載されたが、応募は1件しかなかった。

選考基準は、北海道の建築界の技術の向上に資するものであることで、地域性、独自性、有効性、新規性の4点を評価項目とした。

本件の開発思想は、仕様規定から性能規定への改定、及び、地球温暖化防止対策としての省エネルギー基準の整備見直しを受け、高齢者対応、耐久性・省エネルギー、環境共生を開発思想として、外断熱の「BES-T 構造法」を開発した。この構法の特徴として

- 1) 外断熱構法 構造躯体をSE ベストボードで覆い、熱橋と内部結露を抑制する。
- 2) 基礎断熱と床下換気システム 基礎断熱、防湿土間コンクリート、床下換気システムを導入し、床下の湿気と床面温度の問題を解決した。
- 3) 24時間換気システム 安定した室内空気環境と、換気による熱ロスを熱交換型換気（第1種）の採用で、省エネを実現。
- 4) 接合金物 接合部に構造金物を採用し、強度向上、施工合理化、品質の安定を実現。
- 5) エンジニアリングウッド エンジニアリングウッドの採用で、構造躯体の強度向上、安定品質の確保と、ベストEボードで壁の面耐力及び防蟻性能の向上。
- 6) 高性能断熱サッシ 熱ロスが大きい窓にPVC サッシとLow-E ガラスを採用し、熱、雨、騒音をシャットアウト。
- 7) バリアフリー 高齢化社会に向け優しく快適に生活するために、バリアフリーの設計思想を導入。
- 8) プレカット 品質の安定した構造躯体の供給と、現場でのゴミの削減、工期短縮、施工合理化を実現。

上記1)～8)の通り、住宅メーカーとして、住宅全体の諸問題について、積極的に取り組んでおり、総合的に判断して、本件は技術賞に値すると判断した。

今後、断熱材の取り付け方法、及び、外壁の防火に関する開発をお願いしたい。

（文責：武田 寛）